

年内出荷に適した早生ポンカン「KP-2」の特性

「太田ポンカン」より着色が早く、年内出荷に適する早生ポンカン「KP-2」の育成

背景・目的

- ・カンキツ生産では、年内に出荷できる品目や品種の導入は経営上のメリットが大きい。
- ・鹿児島県では年内出荷可能な品目としてポンカンがあるが、秋季の高温の影響による着色の遅れ等によって出荷が不安定な年がある。
- ・そこで、安定して年内出荷が可能な早生ポンカンの育成を図る。

成果の内容

12月上旬にはほとんどの果実が8分着色以上となる早生ポンカン「KP-2」

【育成経過】

「太田ポンカン」の種子にガンマ線を照射して育成した「KS-15」の珠心胚実生30個体の中から選抜した。

【特性】

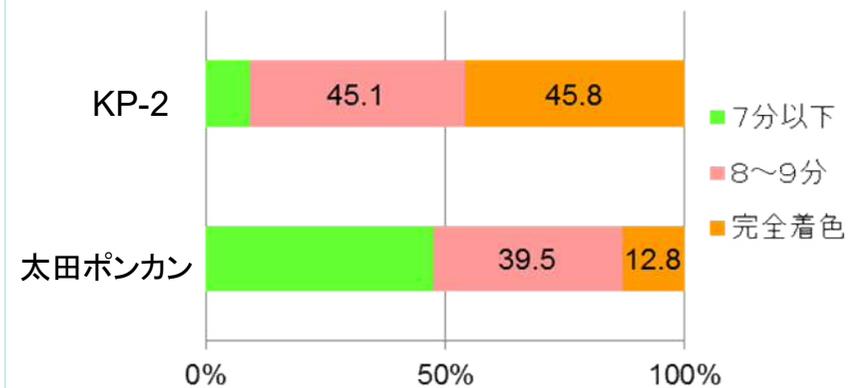
- (1) 樹勢は中～やや強、樹姿はやや直立する。
- (2) 着果性が良いことから、隔年結果性は低い。
- (3) 12月上旬にはほとんどの果実が8分着色以上となり、着色は「太田ポンカン」より早い。
- (4) 果実重は190g程度、果形は扁球形、糖度は10.5度、クエン酸は0.7%程度である。
- (5) 果皮色は橙色で、す上がりの発生が少ない。



「KP-2」の着果状況と果実

導入メリット

12月上旬にはほとんどの果実が8分着色以上となる



年内出荷用の系統として活用できる。



期待される効果

- ・本系統の導入により、年内の出荷が安定する。

普及対象・範囲
カンキツ生産者・カンキツ産地